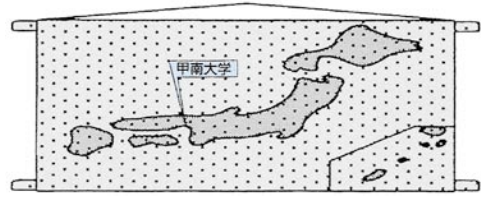


# Zephyr

〈第41号〉

ゼフィール・にしかぜ


<http://www.kilc.konan-u.ac.jp>

## 《特集＊外国語で表現する喜び》

☆所長からのメッセージ 目的を持って、外国語学習を楽しみましょう……………	胡 金定……………	1
〔英 語〕英語プロセス・ライティングの喜び……………	中村 耕二……………	2
〔ドイツ語〕ドイツ語との付き合いよやま話……………	柳原 初樹……………	4
〔フランス語〕フランス語で書くことの意義を知る……………	ディディエ・シッシュ……………	5
〔中国語〕オリンピック运动会（オリンピック）の後で ——中国語で表現することの喜びについて……………	石井 康……………	6
〔韓国語〕韓国語を駆使できることとその真の喜び……………	金 泰虎……………	8
〔日本語〕外国語で表現する喜び ——留学生の場合……………	永田 雅子……………	10
☆みんな集まれ！外国語で話してみよう……………		11

## 目的を持って、外国語学習を楽しみましょう

国際言語文化センター所長 胡 金定

多くの人は、中学から大学まで、通算10年間の時間と労力を費やして英語などの外国語を勉強しています。さらに大学を卒業してからも、語学学校に通って勉強し続ける人がいます。しかし、外国語学習に投資してきた時間と費用に値する語学力を身につけた人はどれくらいいるのでしょうか。習得できなかった大半の人は、「私は〇〇語とは相性が悪い」と都合よく結論を付けがちです。この傾向は、外国語学習成功論を全面的に否定することになります。

確かに日本の中学、高校の英語教育（学習）は受験のためのものです。受験英語では生きた英語はなかなか身につかないのが現状です。英語以外の外国語は中学や高校ではあまり開講されていません。大半は大学に入ってから、初習外国語として発音から勉強し始めます。受験外国語学習の目的ではなく、ある程度の学習目的を持って勉強します。それでも、外国語学習は苦手、苦しい、嫌いという人が存在します。ではどうすれば、楽しく学習できるのでしょうか。私は、「目的意識を持つこと」こそ、最強の力になると考えています。

何のために外国語を学習するか、学習する前に目的をはっきりさせることが必要です。中学、高校生は受験のため、大学生は卒業単位を修得するために勉強することが多いでしょう。もちろん外国語が好きで将来に繋がることを考える学生もいます。また、外国に旅行したり、自分の母国語と異なる言語を話す人々と交流したりするために学習する人もいます。外国語の小説を読みたいから、研究のために必要な文献を解読するために、などの目的を持つ人もいます。外国語学習の目的は十人十色なので、外国語教育者は学習の目的に合わせて、教材の選定、学習時間の設定、教授法の開発をしています。だから、一番重要なのは学習目的を明確にすることです。目的を定めた上で、こつこつ持続して勉強しなければなりません。外国語学習は一朝一夕にしてできるものではありません。時間、労力及び根気が必要です。そして何より、学習を楽しまなければ継続できません。

現在、世界の外国語教育の趨勢はコミュニカティブ・アプローチです。しかし、日本では伝統的な

文法訳読方式が未だに主流です。そんな中、甲南大学国際言語文化センターは、外国語教授法のコミュニケーション・アプローチで英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の教育を実施しています。学習者のニーズに合わせて小まめに、インプットとアウトプットの手法で習った外国語を使ってコミュニケーションできるようにするなど、学習者の第二言語表現能力をつけています。言い換えれば、「聞く、話す、読む、書く」の外国語四技能をバランスよくアップするように心がけています。また、90分の授業に退屈しないように、読解の時間、会話の時間、聞く時間、翻訳の時間を均等に配分して、楽しい授業を展開しています。

学習者に外国語で表現するように授業の中で提唱しているだけでなく、日本に来ている留学生や外国人に外国語でコミュニケーションするように奨励しています。また、積極的に海外語学講座や短期・長期留学を推進しています。学習者に外国語表現の楽しさを経験して、継続学習意欲を高めています。

外国語学習は三つの段階があると思います。第一は要件などを伝えればよいという「道具」としての段階です。第二は外国語でその国の文化、考え方、風俗習慣、宗教、心情を理解する段階、第三は自国の文化、風習、考え方などを外国語で外国に発信する段階です。この三段階をすべてクリアすれば、外国語で表現する本当の楽しみが体験できるはずです。

甲南大学創立者平生夙三郎の「世界に通用する紳士・淑女たれ」という教育方針が示しているように、世界を舞台に活躍できる人材を育てることです。世界を舞台に活躍できる人材はまず外国語を身につける必要があります。現在、世界では「聞く、話す、読む、書く」の外国語能力をバランよく持っている人材が求められています。学生諸君、受動的な学習姿勢ではなく、積極的に発言できる外国語能力をマスターしましょう。

## 英語プロセス・ライティングの喜び

国際言語文化センター教授 中村 耕二

ライティングは芸術そのものです。プロセス・ライティングは作者の知と心を文章に刻みながら何度も書き直し、プロセスを追って仕上げる芸術作品のようなものです。世界で通用するアカデミック・ライティングの基礎になるプロセス・ライティングの修得は日本の大学教育の一分野です。プロセス・ライティングとはプロセスを重視し、学習者同士、さらに、学習者と教師の間における相互作用のあるライティングの学習方略です。母語を目標言語に直訳することではありません。

明治以来、西洋の知識や技術を吸収し、日本語に置き換える英文和訳は日本の近代化のために必要でした。また、日本を説明するために日本のシステムや伝統文化を英語に置き換えるための和文英作も必要でした。その伝統が日本の大学入試や英語教育に少なからず影響を与えてきました。

一方、プロセス・ライティングは学習者を意味のある一連のコミュニケーションタスクに参加させることを可能にした有効なライティングの学習方略です。つまり、プロセス・ライティングは与えられたテーマに関して、批判的、客観的に現状を分析し、問題解決を求めるアカデミックな表現プロセスであり、精選された情報源から自分達の考えを構築していくプロセスです。書くために、多くの資料を集め、幅広く読み込むことで背景知識が広がります。自らの意見を構築することで思考力を高め、その中で自分自身を知的に高めることができます。テーマに沿って各パラグラフの目標を設定し、アウトラインを学習者同士で点検します。主題文 (Topic Sentence) と命題文 (Thesis Statement) を明確にし、それを補足説明しサポート (Support) する内容を考え、主題文や命題文と内容の整合性

(Coherence)を確認しながら結論を導きます。結果だけでなくプロセスを重視し、教師やクラスメートのアドバイスを受け、書かれた作品を発表して学び合い、相互に評価します。これら一連のプロセスは「学びの共同体」や「Language Home」を形成します。

プロセス・ライティングでは主体的に自分の考えを確立していくために、意識が覚醒され、思考力が深まります。目標言語の断片的な文法知識や規則を暗記し、その知識をテストすることで評価するという従来の発想から、学習者同士が協力し、目標言語で自己表現していくプロセスを重視するという新たな発想への転換です。この学習プロセスは極めて教育的であり、人間的と言えます。学習者の大部分が目標言語で自己表現する醍醐味を共有できるのです。外国語で考え、表現することにより、新たな発想や自文化の再発見も経験します。また、プロセス・ライティングは、パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングの相互関係を浮き彫りにし、読むことと、書くことを分離しない言語教育を実現させたのです。これらのプロセスは、外国語学習を通しての人間復興（ルネサンス）と言えるかもしれません。

基礎英語 I の授業は速読・多読・パラグラフ・リーディングが中心ですが、受講生はリーディング教材に対する自分自身の意見と批判をプロセス・ライティングに従って、英語で表現する喜びを享受することができます。以下は文学部日本語日本文学科 1 年生の山本さんの提出課題の最初のパラグラフと結論のパラグラフです。本人の許可を得てここに掲載します。パラグラフ・ライティングが習慣化すれば、批判的な目で自分の意見をこのように自己表現できるものなのです。英語の社説 “Who Killed Our Culture? We Did.” by Youki Kudoh (TIME, May 3, 1999) を読んで、それに対する彼女の意見ですが、グローバリゼーションや西洋化に翻弄される日本への警鐘として評価できるものです。

## Losing Japanese Culture 日本語日本文学科 1 年 山本真未奈

### 第 1 パラグラフ (Introduction)

Imitation of a foreign culture is a suicide. Japanese people should respect themselves without copying North American values. We establish good relationships with people from different cultures of the world. Japanese young people tend to pretend to be someone else due to a sense of inferiority complex and an adoration for Western cultures. In the age of globalization, we need to be proud of being ourselves and contribute to the world, representing Japanese culture and traditional values.

### 第 5 パラグラフ

History shows us that civilization has been born where many cultures encountered, learned and accepted with each other. Based on this perspective, we need to learn Japanese cultures and traditional values as well as the culture of the world. As the first step, young Japanese need to succeed to these traditions and pass them on to the future generations.

### 第 6 パラグラフ (Conclusion)

In conclusion, the real global citizen is a person who has his/her own cultural identity and pride, while respecting other people and their cultures. Don't let ourselves be overwhelmed by superficial trends in westernization and globalization. Be yourself and identify what you are by learning from other cultures and their wisdom.

皆さんもプロセスを追って、パラグラフ・ライティングを学び、自己表現力とその喜びを共有しましょう。外国語の修得は一生の財産になります。

# ドイツ語との付き合いよもやま話

国際言語文化センター准教授 柳原初樹

ドイツ語が美しい言葉であることに気付いたのは、Lied（歌曲）を聞いてからでした。最初に何を聞いたのかは覚えていませんが、Edith MathisやElly Amellingの歌うMozartやBeethoven、Schubert、Schumannのクラシック歌曲、オペラ、民謡（Volkslied）、また当時のドイツ人の先生から教えてもらった昔のドイツの歌謡曲なども好んで聴いていました。所属していたドイツ語サークルでドイツ語劇を上演する機会もあったので、自分たちで台本を作成して、ドイツ語に翻訳して、顧問の教授に添削してもらい、ドイツ語の台詞を一生懸命覚えめました。サークルの合宿ではドイツ語劇を上演しました。40名ほどの部員が4班に分かれて、顧問やドイツ人の先生、留学生の前で演技します。夏休みにはいって、合宿前に先輩が勉強会を開いてくれ、台本に出てくる文法を全て説明してくれました。1年生の夏休みで、1年間に習うドイツ語文法の大枠を叩き込まれました。でも、チャーミングな先輩だったので楽しかったです。外国語会話は異性に習うのが一番だと思います。きっかけはチャーミングな女性、カッコいいドイツ人との出会いであってもいい、美しい音楽や深遠な思想、魂を揺さぶる詩、生き方の指針となる哲学であってもいいと思います。「子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者：子曰わく、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」です。

思想家ニーチェ（Nietzsche：1844-1900）は、『ツアラツストラかく語りき』（Also sprach Zarathustra）の中で人間の「精神の三様」について、「どのようにして精神が駱駝となり、駱駝が獅子となり、獅子が小児となるかについて述べよう」と語っていますが、彼も小児の遊び＝楽しむこと＝「無垢な自由な精神」を讃えています。「しかし思え、わたしの兄弟たちよ。獅子さえ行うことができなかつたのに、小児の身で行うことができるものがある。それは何であろう。なぜ強奪する獅子が、さらに小児にならなければならないのだろうか。小児は無垢である、忘却である。新しい開始、遊戯、おのれの方で回る車輪、始原の運動、「然り」という聖なる発語である。そうだ、わたしの兄弟たちよ、創造という遊戯のためには、「然り」という聖なる発語が必要である。そのとき精神はおのれの意欲を意欲する。世界を離れて、おのれの世界を獲得する。」

みなさん、子供の時のことを思い出してください。言葉を習得する時には、これを学ばばどんなメリットがあるとか考えずに、無垢になり、忘れても、忘れても、新たに開始し、遊びながら、泣きながら、自分からお母さんや環境を信じて（＝然り）きたのではないのでしょうか。自分を創っていくには、この「信じる」こと、対象への無垢な愛情が原動力になるのではないのでしょうか。好きな歌や、詩、格言、台詞、なんでも口ずさんでください。好きなことは自然に身につくと思います。オランダの人類学者ホイジンガも「人間とは遊ぶ存在だ：homo ludens」と述べています。

日本人も昔は、漢文や和歌を口ずさんでそらんじてきました。『声に出して読みたい日本語』（齋藤孝著）という本が大人気を博しましたが、言葉は意味だけではなく、音声からも成り立つ



（ニーチェが晩年を過ごしたスイスのシルス・マリア）

ています（漢字は表意文字として形象も重要ですが）。この音声は脳に記憶されていくことは、言語習得上、極めて重要です。以下、ドイツ語の音声について、私自身の失敗も紹介しながら簡単に触れていきたく思います。

### 日本人のドイツ語習得におけるウィーク・ポイント（体験的報告）

まず、ドイツ語の発音は英語と異なり、非常に規則的なので習得しやすいです。問題は、母音では「Ö」、「Ü」、子音では「L」と「R」、或いは「B」と「W」の正確な発音です。日本語には母音は5個しかないので、日本語にないドイツ語の母音の正確な発音、そして子音では正確な唇の動きや位置が大事です。私がドイツでホームステイをしていた時の失敗談を披露しましょう。ある時、電話が鳴り、対応するとホームステイ先の奥さんのお友達からの電話でした。不在でしたので、名前を聞き、メモを残しました。「Schlamm夫人から電話がありましたよ」と。帰ってきた奥さんは、メモを読んで大爆笑して、私に尋ねます。「柳原さん。私の友人の名前はなんと言うの?」、「Schlammさんでしょ」。またしても爆笑。「もう一度おっしゃって」、「Schlammさん」、「Schlammではなく、Schrammよ。ところでSchlammという単語の意味ご存知?」、「いいえ」。部屋に戻って早速、辞書を引きました。辞書にはこう記されていました。「Schlamm = 泥、ぬかるみ」。赤面。私の脳の音声認識機能は「L」と「R」の違いを認識出来ていないことがわかりました。その他、ここに紹介するのが憚れる失敗もたくさんあります。この弱点を皆さんに克服してもらうために、ドイツ語Eラーニングコンテンツでは、ネイティブスピーカーの口の動きを動画で表示しています。下記のURにアクセスしてください。皆さんの発音の上達を願っています。失敗談の続きは、私の担当する中級ドイツ語の授業でご期待ください。

<http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/msc/>（このドイツ語学習コンテンツを訪問してください!）

## フランス語で書くことの意義を知る

国際言語文化センター准教授 ディーディエ・シッシュ

母国語ではない言語で文章を書くのは、簡単なことではありません。日本語とフランス語のようにまったく異なる場合はなお更です。しかし、異文化間の考え方の違いを知るためにはとても有効だと思われまます。私から助言があるとすれば、次のようなことです。書くといっても、目標がなければ進みません。といっても、いきなり論文を書くのは無理でしょう。例えば、絵葉書や手紙を書くという状況を設定してはいかがでしょうか。文章としては短くなりますが、日本語とフランス語で考えてみましょう。日本語では、前置きとして、季節の話題から始まることが多いと思います。フランス語では相手への挨拶や健康を気遣う言葉は述べますが、季節や自然に関する言及はほとんどありません。これだけを見ても、日本人の独特の自然観をうかがうことができます。ですから、日本語を習う外国人には非常に意義のある練習だと思われまますが、同様に、日本人にとっても母国語と自国の文化について再発見をする絶好の機会なのです。手紙や日常生活で使われる決まり文句の中には、フランス語で言い表せないものがあります。例えば、「拜啓」・「前略」といった表現や「よろしく願ひします」・「お疲れ様でした」という表現をフランス語にしようとしても無理です。つまり、言葉にしても、何の意味も持たないものになってしまうからです。日本社会での縦の序列上の自分と相手の関係を明確にしたり、他人とのかかわりをスムーズにするために使われ、特別な感情やメッセージを伴わないこ

のような表現は、フランス語にはしっくりこないのです。こんな簡単な決まり文句から、日本人社会とフランス人社会に見られる、自己と他者の関係の違いをめぐる深い議論にまで発展させることができます。

次に文章構成での基本的なことですが、フランス語で書くときには、主語がなくては始まりません。

日本語の場合、とかく主語が曖昧になることが多いのですが、フランス語では、「私」という個人としての存在を再認識できると思います。実はこの「私」を主語として認識する行為は、「自己」の認識につながり、これこそ、西洋の個人主義を理解する原点だと思われるのです。西洋の個人主義とは他者を考慮しない自己中心主義と誤解されることが多いのですが、本来の意味は、神の教えではなく人間が個人として一人で考えて行動するということです。ここでも、「私」という主語から、東洋と西洋の個人を巡る深い考察へ発展する糸口になるでしょう。

さて、書く練習が少し上達したら、クリエイティブライティングや翻訳という作業で、フランス語の語彙を広げ文章構成力を磨いていくこともできるでしょう。例えば、俳句をフランス語に訳すとしたら韻やリズムなども考慮に入れるため、非常に刺激的な創作になるでしょう。小論文のレベルになれば、論述の基本的なメソッドを習得しなければなりません。フランス語では、論理的である事が、話す場合でも重要になってきます。会話重視で、話し言葉のレベルにとどまっていたら、大人としての評価は上がりません。書き言葉に慣れることは、どんな状況であろうと、相手が誰であろうと恥ずかしくないフランス語が使えるということなのです。

また、フランス語では同じ言葉を繰り返して書くことは野暮ったいとされています。例えば、日本という国を話題にしているとしましょう。まず、最も一般的なのが国名の「le Japon」それ以外には「l'Archipel (列島)」、「le Pays du Soleil Levant (日の出ずる国)」などと言い換えていきます。他の例では、英語・ドイツ語・イタリア語のことをそれぞれ、シェークスピアの言葉・ゲーテの言葉・ダンテの言葉などと言い換えます。このような例を見ると、それぞれの表現が、フランス人の持つ具体的なイメージや一般的な認識につながっていることが良く分かります。日本語は「誰の言葉」と言われるようになるのでしょうか？日本の文化のどのような表象が海外で定着しているかを調べてみれば分かるかも知れません。

## オリンピック運動会 (オリンピック) の後で ——中国語で表現することの喜びについて

国際言語文化センター准教授 石井 康 一

○北京オリンピックの年が終わろうとしています。日本航空インターナショナル北京支店で働く大塚千怜さん（2003年文学部英語英米文学科卒）に話を聞きました。

——仕事では中国語を使う割合は非常に高く、日系企業ではありますがスタッフとの会話はほとんど中国語です。また航空券の予約や変更、発券等の問い合わせも、中国人からの電話だと中国語で全てまかっています。企業へ営業に行く時も、タクシーに乗って、行ったところのないところへも自分で説明して行かないといけないので、北京の地理にも随分強くなりました。日本にいる時に日本語で仕事しているのと同じ要領で、こちらでは中国語で全てをまかっていることに、今では慣れてしまって違和感はありませんが、よく考えると不思議な気がします。

——意思疎通をはかることは、日本語でも難しいことです。それを外国語で自分の要求を表現するのは、語学能力も問われますし、またモノの言い方や身振り手振り、目線や態度も伴ってきます。中国人は表現がはっきりしていますが、日本人はどちらかというと曖昧な事が多いと言われ

ています。ですから同じことを中国人に伝える時は、なるべくはっきり言うようにしています。  
——自分の要求が中国語で伝わり、それがうまくいったときの喜びは、本当に大きなものです。  
たとえば、スタッフに今日中にしないといけない払戻しの手続きを朝一番にお願いしてうまくいった時や、航空券のキャンペーンを企業に配布しに行き中国語で説明をし、実際にキャンペーンに登録していただいた時など。

——オリンピック期間中は、日本人選手の輸送や日本から来る日系企業の社長並びに役員等のケアが主な仕事でした。またオフィスに隣接しているホテルにJOC（日本オリンピック委員会）の本部があり、日本人を主とした観光客や駐在員やその家族が大画面で試合を見られるようにと作った部屋に置かれたJALのブースに仕事中にたびたび顔を出すなど、とにかく忙しくて休みなしでした…

○大塚さんの他にも、マスターした中国語を活用して現在中国でがんばっている卒業生はたくさんいます。在学生の皆さんも明確な目的意識を持って、中国語学習に邁進して下さい。

○私が北京を訪れたのは、パラリンピック開催期間中の9月中旬でした。北京の人々はオリンピックが成功裏に終わったことに安堵と誇りの表情を浮かべていました。タクシーの運転手は「儲かっているでしょう？」と尋ねると皆首を縦に振り、機嫌もよくて話が弾みました。オリンピックグッズの公式ショップも国内外の観光客でにぎわっていました。地下鉄の新線に乗り、テロ防止の手荷物チェックを受け、車椅子バスケットボールの試合を見に行きました。車椅子の激突・転倒など、激しい競技でした。会場だけでなく地下鉄の駅でも街中でも数多くの志願者（ボランティア）を見かけました。いまだに建設中のホテル・デパート・観光施設をたくさん目にしました（間に合わなかった？）。オリンピックに向けて一直線に発展の道を歩んできた北京は、オリンピックが終わって今度はどの方向に進んで行くのでしょうか。

○中国語で表現する喜びを得るための勉強手段をいくつか紹介しましょう。

中国語の文法はシンプルでわかりやすくできていますが、中国語にもまた四千年の歴史があり、奥が深く、捉えきれません。その多様な表現にできるだけたくさん触れて、自分の口で言うことが大切です。家村佳予子「通じる中国語 — 本物の中国語を話そう！」（語研 2205円）は、私の好きな一冊です。

○NHK「テレビで中国語」講座だけでなくラジオ講座は如何ですか？ラジオを聴く習慣を持つ人は最近減っているようですが、語学学習に有効な手段であることはわかりありません。テレビのように映像がない分、聴覚に集中し、イメージーションがふくらみます。神戸出身の小野先生の親しみやすい語り口が、中国語の本質をわかりやすく伝えます。ぜひ一度チャレンジしてみてください。

NHKラジオ「まいにち中国語」ちがいのわかる6か月 講師 小野秀樹

ラジオ第2放送〔月～金〕午前8：15～8：30

再放送 〔月～金〕午後3：30～3：45

再放送 〔月～金〕午後10：50～11：05

再放送 〔日〕午前11：15～午後0：30（5回分まとめて放送）

☆リスニングは聞いても二〇パーセントしかわからないような教材を聞くより、八〇パーセント以上わかる教材を何度も聞いたほうがよい。

☆話す練習をするときは、まず意味を通じさせることを第一にし、同時に余裕があれば、正しい文を言うようになるべく努力する。音声的にもなるべく正しい発音をするよう注意を払い、正確さと流暢さのバランスをとるようにする。（通じさえすればいい、という態度は、長期的には、あまりよくない。）

○上の二つは、白井恭弘「外国語学習に成功する人、しない人」(岩波科学ライブラリー)の「付録 知っておきたい外国語学習のコツ」からの引用です。同じ著者の新刊「外国語学習の科学——第二言語習得論とは何か」(岩波新書 735円)も、強くお勧めしたい本です。外国語を学ぶ自分自身を客観的に見つけ、どういう方法が効果的か、自分で模索してみることも大学生にとって大切なことだと思います。

○月曜のお昼休み、6号館5階の中国語・韓国語学習指導室にて「中国語学習相談アワー」、私が待機していますので、質問・相談のある人は、いつでも来てください。



オリンピックのメインスタジアム「鳥巢」



夜の天安門広場

## 韓国語を駆使できることとその真の喜び

国際言語文化センター准教授 金 泰 虎

一般的に外国語の学習目的は、大きく3つに分けて考えることができます。その1つ目は、外国語を使う仕事、または仕事をこなしていく上で外国語の理解が必要となるなど、仕事絡みで学習を迫られるケース(Case)で、外国語を専攻するのもこの範疇に入ると思います。2つ目は、自己実現を目指す外国語の習得です。趣味の一環として人間関係を広げたり、あるいは教養を深めたりするために学習する場合です。3つ目は、教養としての学習ではあるものの、自分の意志とは関係なく、学習させられるケースです。外国語を学びたいという意識を持たない大学生が、必修の単位取得のため、やむを得ず外国語を受講することが代表的な事例と言えます。

この中で学習意識は、1つ目が最も強く、2つ目がそれに次ぎますが、いずれも積極的かつ「能動的」な学習姿勢が目立ちます。これに比べ3つ目は、自ら進んで学ぶのではなく、より「受動的」姿勢であると言えます。「受動的」学習では、その効果があまり期待できません。スタートライン(Start Line)が同じであっても、「能動的」か、それとも「受動的」かによって、学習者の上達具合は大きく異なってきます。言うまでもなく、「能動的」な学習姿勢の学習者が遙かに伸びるのです。

ところで、希に学習者の中には、3つ目のような動機の低いスタートであっても、学習して行く中で、外国語を必要とする仕事につくことを目指すようになったり、外国の友人との友情を深めるため、あるいは外国のドラマや映画を原語で観たいという願望をもつなど、目的意識の転換を見せる人もいます。

特に、大学生は目的意識に変化や成長が起こりやすい環境にいることから、積極的な学習姿勢が増え、学習の喜びを見つけることが多いのです。この目的意識とは、まるでパソコンゲーム(Personal Computer Game)が好きな子供が、ゲームに熱中するあまり食事をすることも忘れるような状態と似ており、素晴らしい集中力を発揮します。このような楽しさを外国語の学習に見出せば、必ず学習



に成果が表れ、成功を取められます。つまり学習者は、ゲームにはまる子供と同じような好奇心と集中力を、同じく外国語学習においても見つけてほしいです。言語学習の楽しさや喜びは、この目的意識の有無やその度合によるものに他ならないのです。

とりわけ、外国語の中で韓国語は、日本語と語順・文法・語彙などに酷似性があるため、日本人学習者にとって勉強しやすい言語とされています。もちろん逆も同じで、韓国人にとって日本語も馴染みやすい言語と言えます。つまり、日韓の両言語間では、学習し始めて比較的早いうちに、意思疎通ができる喜びを味わえるのです。しかし、両言語に酷似性や学びやすさがあるとは言え、その語学力や精度をネイティブ(Native)並にまで仕上げる段階となると、難しさが伴います。そしてこれは、どの外国語の学習においても同じことが言えます。なお、日本語の水準が低ければ、外国語の実力も高い水準まで到達しないということも覚えておいて頂きたいです。つまり、韓国語の実力というのは日本語の能力に比例するのです。

ところで、外国語の学習は未知の世界への旅と言えます。したがって、初めて学ぶ外国語は、新しい世界を知る喜びを掻き立ててくれるのです。未知の韓国語に入門して、片言でも言語が通じたという経験をすれば、旅に一層の喜びと楽しみが生まれます。例えば、学習した韓国語の「アンニョンハセヨ (안녕하세요)」(「お早うございます」)、「こんにちは」(「こんばんは」)のすべてを包括する挨拶という言葉で韓国人に挨拶をし、その返事が韓国語で返ってきたとき、外国語を使う楽しさと通じた喜びを知るようになります。

では、果たして韓国語で意思疎通をはかることだけが、外国語学習がもたらす喜びなのでしょうか。実は、意思伝達の喜びは表面的なものに過ぎないと思います。韓国語が話せる背景には、より深い意味をもった喜びが潜在しています。

ところで、グローバル(Global)化時代の到来とともに「国際理解」という言葉が流行っていますが、韓国の存在は、この「国際理解」の実現方法を教えていると思います。つまり、幼児が手短な言葉から覚えて徐々に母語を学習していくように、「国際理解」においても、近くの国から離れている国へとその範囲を広げていくことが重要であると言えます。日本を中心にして同心円の範囲を広げて行けば、最初に出会うのは隣国の韓国であり、韓国語なのです。これが、日本における「国際理解」のナチュラル(Natural)な方向性と言えるでしょう。

日韓交流はその歴史が古く、その中には、日本による「文禄・慶長の役(1592~1597)」や植民地支配(1910~1945)という不幸な歴史はあったものの、良好な関係を持続した期間が遙かに長いのです。特に、日韓は隣国同士で、絶えず文化の交流を行いながら、似ているようで異なる、それぞれ独自の文化を育んできました。グローバル化時代に突入してからも、両国の相互訪問者数が互いに一番多い割合を占めており、依然として活発な交流が行われています。

このような日韓関係における交流の歴史を踏まえて、特に最近の盛んな交流が、今後、いかに持続され、どのように発展していくことが望ましいか、例えば世界ではEU(Europe Union)のように地域単位での統合が進む中、東アジア(Asia)において日韓がどうあるべきかを追究していくのは、韓国語を話す喜びと異なる、より深い意味の喜びを味わうことができます。

つまり、韓国語が通じる喜びからもう一歩足を踏み入れると、日韓交流・韓国文化の理解、ひいては異文化理解・国際理解にまでその認識の幅を広げることができ、21世紀の日韓のあり方を追究するなど、よりスケール(Scale)の大きい課題と喜びが待ち受けているのです。これらは言語学習で得る喜びからさらに発展した、真の意味合いの喜びと言えます。

このように、韓国語が駆使できるということは、真の意味合いの喜びを知るための入口に立っているということでもあります。意思疎通に加えて、真の意味の喜びを経験したとき、至福感最高潮に達することでしょう。

# 外国語で表現する喜び

## —留学生の場合

国際言語文化センター日本語特任講師 永田 雅子

### 日本・日本語が好き

甲南大学には毎年アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、フランス、ドイツ等の国から、日本語を勉強するために留学生がやって来ます。アルファベットを使わない日本語は彼らにとって、異質の言語と言っていていいでしょう。その日本語を学ぼうとした動機は、日本文化や日本の漫画・アニメに興味を持ったとか、あるいは日本語そのものに興味があるとか、将来日本語を使った仕事をしたいとか、たまたま日本人が身近にいたとか、様々でしょう。しかし、自国だけでの日本語学習で終わらず、日本に留学する決心をした学生達は、みんな日本が好き、日本語が好き、もっと上手になりたいと言います。自国で勉強した日本語を使い、日本の生活を始めた彼らには不安よりも喜びの方が大きいと思います。

### 留学してからの日本語

甲南大学に留学した学生は、レベル別にクラス分けされ、毎日午前中に日本語の授業を受けます。日本語教師は基本的に日本語だけを使って教え、学生も教室内では日本語だけで話すというのも決まっています。そして、授業時間以外でも、留学生以外の学生はもちろん日本人ばかりですから、日本語で会話しなければなりません。やはり積極的に日本人の友人を作ったり、クラブに入った学生は、本当に日本語が上達していくのがわかります。同じ興味を分かち合って練習をしたり、苦労や喜びを共にするうちに、自然と日本語も身に付くのでしょう。甲南の留学を終えてからも、交流を続けている学生もいます。友情というレベルから恋人同士になる留学生も中にはあります。語学が上手になる早道はその国の恋人を作ることだと冗談めかして言いますが、ある意味でそれは的を得ているかもしれません。いずれにせよ、日本人の友達、特に挨拶程度で終わる友達ではなく、真の親友を作るとは、その国の言葉を習得するのに役立つだけでなく、人生においても大きな収穫、喜びとなります。また日本が第二の故郷となり、第二の家族を得た学生もいます。例えばホームステイをしていたある留学生は、ホストのお母さんが全然英語が分からなくて最初は困ったらしいです。しかし日本語がだんだん上手になるにつれ、日本語での会話が弾むようになり、良い関係になったそうです。日本語を使って第二の故郷、家族ができたことは、その学生にとって大きな喜びとなったことは言うまでもありません。

### 壁を乗り越えてこそその喜び

日本に来たばかりの留学生は、みんな日本語に燃えています。だんだん教科書も難しくなり、漢字や語彙が増えてくると壁にぶち当たります。日常生活の会話には役に立たないからと言って、授業をおろそかにする学生も出てきます。初級から中級レベルでは習うことも新鮮で日本人と簡単な会話ができ嬉しかったのに、中級以上からは、自分はそんなに上手になっていないと感じる学生もいるようです。しかし、甲南のプログラムを終えてもう1度JETプログラムや日本で働きたいという学生達は、うまくこの壁を乗り越えているようです。職場では目上の人達、見知らぬ人と接することが多く、甲南の留学生時代と全く環境が違います。そういった経験をした学生は見違えるほど日本語が上手になっています。先日、私が初級クラスで教えた学生が久しぶりに甲南大学を訪れてくれました。彼は留学当時は会話が苦手なようで、おとなしい学生でした。しかし再来日しJETプログラムで英語

教師として働き、その後も自国に帰らずチャレンジして、もっと日本語を使わなければならない東京の区役所に勤め、今は毎日、日本語を駆使し、海外姉妹都市交流関係の仕事をしています。彼の意見では甲南大学に留学していなかったら、今の自分はないし、日本語の壁を乗り越えていなければ、日本での仕事やそれに伴う新しい経験もできなかったらと言っていました。彼の話で印象的な話があります。日本に留学したばかりの頃、日本人に「ありがとう」とか「はじめまして」とかしか言っていないのに、日本人は「日本語が上手ですね」とみんな褒めるのですが、彼は嬉しいどころか、その反応が変だと思ったそうです。本当に嬉しいと感じたのは、職場で自然な日本語を話しているとき、陰で日本人同士が「彼の日本語すごうまいね」と囁いたのを耳にした時でした。お世辞ではなく、本音で褒めていることがわかったからです。彼はそれを聞いて、もっと日本語が勉強したくなったと言っていました。語学学習の壁を乗り越えた人だけが味わえる喜びを、彼はこれからもたくさん経験するに違いありません。

## みんな集まれ！外国語で話してみよう

チューターと自由な会話を楽しんでみませんか！

きっとコミュニケーション能力がアップしますよ。

国際言語文化センターでは、各言語（英・独・仏・中国・韓国語）を母語とするチューター（留学生ならびに非常勤講師の先生方）にお願いして、6号館5階にある学習指導室で自由に学生の皆さんと会話のできる時間を設けています。

大いに活用して役立ててください。

2008年度後期は以下のとおり、実施しています。

### 英 語

開設期間：後期 10月13日（月）～2009年1月15日（木）

実施曜日：月曜日～金曜日

実施時間：11：00～17：00

開設場所：英語学習指導室（6号館5階）

チューター：甲南大学特定任期教員・甲南大学留学生

◆月／11：00～12：00・13：00～15：00

◆火／13：00～14：00・15：00～17：00

◆水／11：00～12：00・13：00～15：00

◆木／14：00～16：00

◆金／13：00～16：00

※チューターの詳しい時間割は英語学習指導室前に掲示します。

## ドイツ語

開設期間：後期 10月15日（水）～2009年1月15日（木）

実施曜日・時間：水曜日 16：30～18：30

木曜日 16：30～18：30

開設場所：ドイツ語・フランス語学習指導室（6号館5階）

チューター：MAMACH, Martin / FIER, Fabian（水曜日）

：NINA, Härterich（木曜日）

## フランス語

開設期間：後期 10月13日（月）～ 2009年1月9日（金）

実施曜日・時間：月曜日 15：00～17：00

：木曜日 14：00～16：00

：金曜日 14：00～17：00

開設場所：ドイツ語・フランス語学習指導室（6号館5階）

チューター：Marine DARU（マリーヌ・ダリュ）（月曜日）

Thomas TROUILLOT（トマ・トルイヨ）（木曜日）

Jonathan MANON（ジョナタン・マノン）（金曜日）

## 中国語

開設期間：後期 10月13日（月）～2009年1月9日（金）

実施曜日・時間：月曜日 13：00～15：00

：金曜日 14：00～17：00

開設場所：中国語・韓国語学習指導室（6号館5階）

チューター：呉映妍（ゴエイケン）

## 韓国語

開設期間：後期 9月22日（月）～12月12日（金）

実施曜日・時間：月曜日 15：00～17：00

金曜日 12：00～14：00

開設場所：中国語・韓国語学習指導室（6号館5階）

チューター：張京花（チャンギョンファ）（月曜日）

：朴南権（パクナンゴン）（金曜日）